

週休 2 日工事
(土木工事・発注者指定方式) の
積算について

令和 6 年 5 月 (一部改定)

大阪市水道局

工務部土木施設課技術監理担当

1. 適用

発注者指定方式による週休2日工事（4週8休以上）の積算について、補正方法及び設計変更は次のとおり取扱うものとする。

なお、本資料は土木工事に適用する。

2. 補正対象

直接工事費及び共通仮設費（積上げ分）に計上される単価のうち、以下に示す単価に対して週休2日工事の補正を適用した単価を使用する。

- ・ 労務費
- ・ 機械経費（賃料）
- ・ 土木工事市場単価
- ・ 土木工事標準単価

なお、「土木工事標準単価」については、「土木コスト情報」及び「土木施工単価」（以下「物価資料」）に掲載の単価を使用しており、補正済単価（同工種）が「物価資料」の両方に掲載されている場合は安価側の単価、一方の「物価資料」のみに掲載されている単価は当該単価とする。

また、見積単価は補正対象外とする。

3. 補正方法

前項の補正対象に対して、各々設定された「補正係数」を乗じることとする。また、補正係数は「4週8休以上」を適用する。

4. 算出例

（1）労務費

労務単価について週休2日工事の補正係数を乗じた単価を算出する。

（計算例）

1）週休2日工事の補正（補正係数：1.05）

$$\begin{aligned} &\cdot \text{普通作業員：} 21,800 \times 1.05 \\ &= \underline{22,890 \text{ 円/人・日}} \end{aligned}$$

2）時間的制約を受ける労務補正（6%）と週休2日工事の補正（補正係数：1.05）

$$\cdot \text{普通作業員：} 21,800 \times 1.06 \times 1.05$$

$$= 24,263.4$$

$$= \underline{24,260 \text{ 円/人・日}}$$

※補正後単価は、10 円未満四捨五入

3) 夜間工事の労務補正 (50%) と週休 2 日工事の補正を行う場合 (補正係数: 1.05)

$$\cdot \text{普通作業員} : 21,800 \times 1.50 \times 1.05$$

$$= 34,335$$

$$= \underline{34,340 \text{ 円/人・日}}$$

※補正後単価は、10 円未満四捨五入

(2) 機械経費 (賃料)

機械経費 (賃料) について週休 2 日工事の補正係数を乗じた単価を算出する。

(計算例)

1) 週休 2 日工事の補正 (補正係数: 1.04)

$$\cdot \text{バックホウ (クローラ)} [\text{標準・クレーン機能付き}] \text{ 山積 } 0.8\text{m}^3$$

(平積 0.6m^3) 2.9t 吊トラッククレーン (賃料) ※長期割引適用

$$: 10,270 \times 1.04$$

$$= 10680.8$$

$$= \underline{10,700 \text{ 円/日}}$$

※補正後単価は、有効数字 3 桁 (4 桁目四捨五入)

(3) 土木工事市場単価

土木工事市場単価について週休 2 日工事の補正係数を乗じた単価を算出する。補正係数は「水道事業実務必携」参照のこと。

(計算例)

1) 週休 2 日の補正 (補正係数: 1.02)

$$\text{週休 2 日の補正後単価} = \text{補正前単価} \times \text{週休 2 日の補正係数}$$

$$\cdot \text{インターロッキングブロック工 (設置、直線配置、100m}^2 \text{ 以上、標準品、厚 6cm)}$$

$$: 5,800 \times 1.02$$

$$= \underline{5,916.00 \text{ 円/m}^2} \quad \text{※小数第 2 位止め (第 3 位切捨て)}$$

2) 加算率・補正係数による割増と週休 2 日の補正 (補正係数: 1.02) を行う場合 (例: 夜間作業補正 (1.15) を行う場合)

$$\begin{aligned} \text{週休 2 日の補正後単価} &= (\text{補正前単価} \times \text{週休 2 日の補正係数}) \\ &\quad \times \text{夜間作業補正係数} \end{aligned}$$

- ・インターロッキングブロック工（設置、直線配置、100m²以上、標準品、厚 6cm）

$$\begin{aligned}
 & : (5,800 \times 1.02) \times 1.15 \\
 & = 5,916 \times 1.15 \\
 & = \underline{6,803.40 \text{ 円/m}^2} \quad \text{※小数第 2 位止め（第 3 位切捨て）}
 \end{aligned}$$

（４）土木工事標準単価

土木工事標準単価について週休 2 日工事の補正係数を乗じた単価を算出する。補正係数は国土交通省のホームページ（現場閉所・4 週 8 休以上を適用）参照のこと。

（計算例）

１）週休 2 日の補正（補正係数：1.04）

週休 2 日の補正後単価＝補正前単価×週休 2 日の補正係数

- ・構造物とりこわし工（無筋構造物、機械施工、時間的制約なし、昼間）

$$\begin{aligned}
 & : 7,715 \times 1.04 \\
 & = 8,023.6 \\
 & = \underline{8,023 \text{ 円/m}^2} \quad \text{※円未満切捨て}
 \end{aligned}$$

２）加算率・補正係数による割増と週休 2 日の補正（補正係数：1.04）を行う場合（例：低騒音・低振動対策（1.3）を行う場合）

週休 2 日の補正後単価＝（補正前単価×週休 2 日の補正係数）
×低騒音・低振動対策補正係数

- ・構造物とりこわし工（無筋構造物、機械施工、時間的制約なし、昼間、低騒音・低振動対策必要）

$$\begin{aligned}
 & : (7,715 \times 1.04) \times 1.3 \\
 & = 8,023.6 \times 1.3 \\
 & = 10,430.68 \\
 & = \underline{10,430 \text{ 円/m}^2} \quad \text{※円未満切捨て}
 \end{aligned}$$

（５）施工パッケージ型積算方式の積算単価

上述（１）～（３）の方法による補正済の労務費・機械賃料・市場単価を用いて算出する。

（計算例）週休 2 日の補正（補正係数：1.02）

- ・コンクリート（無筋・鉄筋構造物、バックホウ（クレーン機能付）打設、24-12-25（20）（高炉）、一般養生、全ての費用）

標準単価：29,669 円

補正後積算単価： 41,450 円

※積算単価は、有効数字 4 桁（5 桁目切上げ）

項目			代表機材材規格	構成比 (%)	標準単価 (R5.4)	大阪単価 (R6.3基準)	補正対象
機械（K）				4.32	－	－	
	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2011年規制）〕 山積0.8m3（平積0.6m3）吊能力2.9t 賃料		4.08	9,840	10,270	○
	K2			－	－	－	
	K3			－	－	－	
労務（R）				37.95	－	－	
	R1	特殊作業員		11.26	25,700	25,700	○
	R2	普通作業員		10.14	22,300	21,800	○
	R3	運転手（特殊）		6.9	25,300	25,600	○
	R4	土木一般世話役		7.41	26,500	27,500	○
材料（Z）				57.73	－	－	
	Z1	生コンクリート 高炉 21-8-25（20）		55.58	15,400	25,700	
	Z2	軽油 1,2号 バトロール給油		2.03	138	138	
	Z3			－	－	－	
	Z4			－	－	－	
市場単価（S）				－	－	－	
	S1			－	－	－	

積算単価P'の算出式

・標準単価： P

・機械賃料： K1t'、K2t'、K3t' ※賃料：週休 2 日補正対象

・労務費： R1t'、R2t'、R3t'、R4t'

・市場単価： S1t'

・構成比 (%)： Kr、Rr、Zr、Sr

$$\begin{aligned}
 P' = & P \times \left\{ \left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \dots + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{Kr}{K1r + K2r + K3r} \right. \\
 & + \left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \dots + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right) \times \frac{Rr}{R1r + R2r + R3r + R4r} \\
 & + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \dots + \frac{Z4r}{100} \times \frac{Z4t'}{Z4t} \right) \times \frac{Zr}{Z1r + Z2r + Z3r + Z4r} \\
 & + \left(\frac{S1r}{100} \times \frac{S1t'}{S1t} \right) \times \frac{Sr}{S1r} \\
 & \left. + \frac{100 - Kr - Rr - Zr - Sr}{100} \right\}
 \end{aligned}$$

：週休 2 日工事補正後の値

（6）共通仮設費率

共通仮設費率について施工地域補正等補正後の共通仮設費率に対して、週休 2 日工事の補正係数を乗じた共通仮設費率を算出する。

（計算例）

施工地域補正（大都市 1.50）及び週休 2 日工事の補正（補正係数：1.04）

を適用する場合（開削工事及び小口径推進工事、共通仮設費対象額：10,000,000 円とする）

・ 共通仮設費率（補正前）：13.32%

・ 共通仮設費率（補正後）：

$$[13.32\% \times 1.50 \text{（施工地域補正係数）}] \times 1.04$$

$$= 19.980 \times 1.04$$

$$= 19.98 \times 1.04 \quad \text{※小数第 2 位止め（第 3 位四捨五入）}$$

$$= 20.7792$$

$$= \underline{20.78\%} \quad \text{※小数第 2 位止め（第 3 位四捨五入）}$$

（7）現場管理費率

現場管理費率について施工地域補正等補正後の現場管理費率に対して、週休 2 日工事の補正係数を乗じた現場管理費率を算出する。

（計算例）

施工地域補正（大都市 1.20）及び週休 2 日工事の補正（補正係数：1.06）を適用する場合（開削工事及び小口径推進工事、現場管理費対象額：10,000,000 円とする）

・ 現場管理費率（補正前）：37.79%

・ 現場管理費率（補正後）：

$$[37.79\% \times 1.20 \text{（施工地域補正係数）}] \times 1.06$$

$$= 45.348 \times 1.06$$

$$= 45.35 \times 1.06 \quad \text{※小数第 2 位止め（第 3 位四捨五入）}$$

$$= 48.071$$

$$= \underline{48.07\%} \quad \text{※小数第 2 位止め（第 3 位四捨五入）}$$

5. 設計変更

現場閉所の達成状況が 4 週 8 休に満たない場合は、精算時に補正分の減額変更を行う。